

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 由布 高等学校	
学校教育目標	「誠実・友愛・努力」の校訓のもと、知・徳・体の調和がとれ、社会の一員として社会規範を守り、公德心豊かで、自己実現をめざす心身ともに健全な人間の育成に努める。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・学校教育目標に基づいて中期目標が設定され、的確な重点目標と方策が計画されている。 ・グランドデザインとして整理されているために、教職員による一体的な取組ができています。	・本校の「個々に寄り添った少人数教育」「2年次からのコース選択」等、特色を生かした教育活動を展開し、この地域唯一の高校として、近隣事業所や地域住民等から認められる学校づくりに邁進し、粘り強く挑戦できる精神と新たな価値観を生み出す創造力を持った生徒を育成していく。 ・学校教育目標を達成するために、管理職と職員との更なる連携を深め、風通しの良い職場づくりをとおして、目標達成に向けたベクトル合わせを行っていく。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い。 ・重点目標に基づくグランドデザインにより、適切な取組がなされている。 ・各種アンケートによる評価を充実させ、詳細な分析を行うことで、傾向性の把握は適切に行われている。 ・課題の要因については、さらに追究が必要である。	・「重点目標」達成のために、保護者アンケート等の外部評価や生徒の授業及び生活アンケートを計画的に実施し、その結果から取り組むべき事項を焦点化し、改善をすすめる。 ・予期しない課題が判明した際に迅速に対応できるよう校務分掌を見直した。その見直しに対し、効率的に運用されているか評価するためにも各種会議を定期的に実施することで、短期のPDCAを回しながら、着実に本校の課題が解決できるようシステムを構築していく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・探究的な学びにおいては、由布市民、民間企業、地域の協力を得て様々な取組が行われている。 ・ボランティア、部活動においても生徒の負担に配慮しながら地域との交流を充実させている。 ・「由布高だより」の発行や、ポスター作成、HPやTikTokの活用など情報の発信は充分に行っている。 ・TikTokでは生徒が主体となり動画を作成するなど、生徒の成長につながる内容となっている。 ・中学生、保護者、地域住民の反応を適切に把握して、さらに効果的な取組としてほしい。 ・地域との連携や人材活用については、引き続き充実させてほしい。	・ホームページの更新や由布高だより(広報誌)を計画的に発行した。中学生をターゲットとした広報としてTikTok公式アカウントを開設するなど、生徒が自主的に活動した。次年度も本校の魅力を正確かつ迅速に伝えられるよう発信力を高めていきたい。 ・探究活動等の学びを通して、地域への活動に取り組むことで生徒自身がその行動に自信を持ち、大いに達成感を得られるよう内容の見直しも含めて改善に取り組みたい。また、その活動をホームページ等で保護者や地域住民に周知し、「開かれた学校」であることの意識を高めたい。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・少人数での授業が多いことは、生徒の満足度につながっている。 ・総合的な探究の時間を活用した「由布学」の取組も成果をあげている。 ・ICTの効果的な活用については、研修などを通して、さらに推進してほしい。 ・また、協働的な学びについても、生徒の要望が高いので、全教員が授業に取り入れるよう改善を期待する。 ・年2回行われる「授業アンケート」については、1回目のアンケート結果のさらなる活用を模索してほしい。	・授業改善検討委員会を定期的に開催し、各教科の授業改善への意識向上を図るとともに現状の課題と改善策等を共有し、計画的に実施できるよう取り組む。 ・「由布学」を中心とした探究活動を展開できるよう、高大連携や地域の教育資源を活用し、生徒の学びが充実するよう取り組む。特にその活動においては明確なテーマを設定することで生徒の探究心の「質」の向上に努めていく。 ・職員、生徒に整備された一人一台端末を活用し、「深い学び」につながる授業を計画し、授業研究会や研修会を実施することでPDCAサイクルを回し、改善に向けて取組を進める。 ・生徒からの授業アンケートは、授業を客観的に見る指標として効果的である。その結果を分析し、教育活動の充実に向け取り組みたい。特に協働的な学びについては、他者との対話や意見交換を通じて多様な視点に触れ、互いの強みを活かした新しい価値の創造や他者を尊重する態度を育くめるよう各教科で積極的に取り入れたい。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・いじめ、不登校ともに件数は多くない。 ・心身不調についての防止対策や発生後の対応についても、組織的な体制が整備されており、機能している。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を充実させ、生徒のみならず保護者の困りをサポートする体制を充実させる。また、面接週間を設定することで生徒と向き合う時間を確保していく。 ・年2回実施しているいじめアンケートの結果から、いじめ対策委員会を迅速に開催し、いじめの早期発見、早期解決につなげられるよう取り組む。また、各種講演会等の機会を設け、内面的な心のたくましさや醸成する「心の教育」を充実させていく。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・電車通学が多いために、通学についての安全指導は問題ない。 ・危機管理体制についても、マニュアル等が充実しているため適切であると認められる。 ・自転車の安全集会を開催し、ヘルメットの着用率も高い。 ・自然環境が豊かであるため、虫や日光への対応を早急に行う必要がある。 ・遮光カーテンなどの予算確保に引き続き努力してほしい。 ・校内の規律を守ることや、授業中の態度を改善することで、生徒が安心して過ごせる環境へ整備してほしい。	・生徒の安全管理については、授業、部活動中の事故等の発生時に迅速な対応ができるよう連絡体制を再確認する。また、保護者との信頼関係を構築し、次年度も生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを進めていく。 ・生徒が授業等、学校生活を積極的に取り組める環境となるよう改善に努める。特にICT機器を活用した授業展開が主流となっており、遮光カーテンの必要性は高いことから引き続き本校の課題として対応したい。
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しを図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・教員が多忙であるために、生徒からの要望への対応が遅くなる実態がある。 ・時間外労働の縮減に取り組み、働き方の改善を早急に行う必要がある。 ・会議・分掌業務の精選、見直しを早急に行う必要がある。	・分掌の配置等を見直し、業務負担が平均化されているか分掌主任と成果を検証する機会を設け、改善に取り組む。 ・客観的なデータとしてタイムレコーダーによる勤務時間を管理し、関係職員に声掛けすることで月別平均超過勤務時間が減少している。また、年休を取得しやすい職場環境となるよう改善し、働き方改革を推進したい。
	学校課題の解決に向けた取組等	○定員確保に向けた取組がなされているか。 ○スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・連携中高一貫教育の特徴をさらに強くして、定員確保を目指してほしい。 ・定員確保の工夫を、学校、地域、教育委員会と協議して捻出してほしい。 ・例えば、卒業生のアンケートや生の声により、由布高校のよさをアピールする取組も期待する。	・連携中高一貫教育において、地域、市教委と連携し、定員確保に向けて課題を整理し、生徒と共に各種の活動に取り組むことで中学生の由布高校への進学意識を高めたい。 ・地域に向けた取組を教職員からの働きかけでなく、生徒会執行部や関係の専門委員会が自主的に企画・運営するなど、自らの力で活動できるようシステムを構築し、郷土愛の醸成を図る。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標に基づく重点目標の設定ができており、適切な学校運営が期待できる。 ・自然豊かな立地条件のもとで、少人数教育が実施され、生徒の満足度も高い。 ・情報の発信については充実しているが、PDCAサイクルをさらに機能させる取組が必要である。 ・授業改善については、協働的な学びの効果的な活用により、授業をさらに活性化してほしい。 ・進路指導も充実しており、進学、就職の進路を考えるうえで参考となる機会が多く提供されている。 ・生徒ヒアリングでも、学校に対する不満もほとんどなく、ボランティア活動等にも意欲的であり、学校生活への満足度は高いと感じたが、校内の規律や授業態度の改善によりさらに満足度を高めてもらいたい。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営ビジョンを全職員で共有し、生徒個々に寄り添い、3年間を見通した教育活動となるよう組織的に取り組む。 ・今年度、本校の魅力を発信することを目的に実施した中高一貫教育の取り組み(由布高校振興大会、出前授業、終礼訪問等)がさらに充実するよう改善策を検討する。また、広報誌やホームページ、SNSを随時更新し、生徒の活躍を適切に発信することができたので次年度も継続したい。 ・指導教諭を中心に年間2回の授業改善研究会を開催できたことで、教員一人一人のスキルアップにつながった。その結果、生徒の授業アンケートにおいて、「生徒対応」、「興味・関心」、「満足度」がいずれも目標値を超えており、次年度も生徒がしっかりと授業に取り組めるよう教職員一同、共通認識をもって取り組みたい。 ・職員の業務負担の改善に向けて、職員の分掌配置等を見直すことで業務の明確化、業務負担の均一化につながることが期待できる。次年度の各分掌の取り組みから、さらに業務負担の削減が可能であるか検証し、改善に向けて取り組みたい。また、部活動においても、生徒のパフォーマンス向上と職員の業務負担が過度にならないよう計画的に休養日を設け、負担軽減につなげたい。 			